

平成15年4月14日

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

## 病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第1号を送付します。

## 平成15年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成15年4月14日

高知県病害虫防除所長

- 病害虫名 マデイラコナカイガラムシ  
学名 : *Phenacoccus madeirensis* Green
- 発生作物 ピーマン、シシトウ、ナス、ミョウガ、オオバなど
- 発生確認の経過  
(1)平成12年4月、安芸郡芸西村の施設ミョウガにおいて、これまで見られなかったコナカイガラムシが発生し、排泄物による汚れ(スス病)などの被害が見られた。  
(2)東京農業大学河合省三博士に同定を依頼したところ、これまで本県では発生の見られなかったマデイラコナカイガラムシと同定された。  
(3)平成14年度に調査を行ったところ、天敵を利用した栽培を行っている促成ピーマン、シシトウ、ナスなどを中心に、ミョウガやオオバなどでも発生が確認された。
- 形態  
雌成虫は楕円形で体長3~5mm。体色は灰緑色で、白色粉状のロウ物質で覆われる。体周縁の白色ロウ物質分泌物の突起は18対で、尾端の1~2対はやや長い。卵のうは長さ1cm内外である。
- 分布、生態および被害状況等  
(1)中・南米原産で、カリブ海諸国、ハワイ、ミクロネシアに分布している。国内ではこれまで小笠原諸島や南西諸島で発生が確認されている。  
(2)国内では、これまでナス科(トウガラシ、ピーマン、イヌホオズキなど)、マメ科(ダイズ、アズキなど)、キク科(センダングサ)、シソ科(サルビア)、クマツヅラ科(ランタナ)、など15科25種の植物に寄生することが確認されており、寄主範囲は広い。なお、これらの植物の他に、トマト、メロン、オオバ(青ジソ)、イチゴ、ソラマメにも寄生することが確認された。  
(3)雌成虫は成熟すると卵のうを形成し、その中に約200個の卵を産む。雌では1齢、2齢、3齢幼虫を経て成虫となるが、雄では2齢幼虫の後、前蛹、蛹を経て成虫となる。なお、詳細な生態については調査中。  
(4)本種は主に葉、茎、果実に寄生する。果実に直接寄生を受けるほか、排泄物にスス病が発生し、茎葉や果実を汚す。
- 防除対策  
(1)ピーマンについては平成15年3月にチアメトキサム剤(アクタラ顆粒水溶剤)がコナカイガラムシ類対象に農薬登録を取得している。また、ネオニコチノイド系(アドマイヤー、モスピランなど)、合成ピレスロイド系(アグロスリン、トレボンなど)、有機リン系(スミチオン、DDVPなど)、アプロード、ラノーなどの殺虫剤が有効であるので他作物では、アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類防除を行う際に、これらの薬剤を選択することで同時防除が可能である。なお、ネオニコチノイド系(チアメトキサム剤含む)、合成ピレスロイド系、有機リン系の殺虫剤は天敵類に対し影響が大きいため天敵利用栽培では使用を控える。もし使用する場合はスポット散布にとどめる。  
(2)初期はほ場内の一部に発生し、その後拡大していくことから、早期発見に努め、捕殺(つぶす)する。  
(3)本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生する可能性が高いため、施設内への観葉植物等の持ち込みを控えるとともに、施設内外の除草に努める。
- 参考事項  
本種はこれまでメキシココナカイガラムシ(*Phenacoccus gossypii*)として記録されていた。